

2025年度研究成果（学会発表）一覧

学長

1. 齊藤康平・野田幸実・小久保晋・早川正幸・山村英樹・中川洋史：出芽酵母における高糖濃度平板培地を用いた自然発生型ストレス耐性突然変異株の分離と解析，第76回（2025年度）日本生物工学会大会，2025.9
2. 小林春菜・武晃・中川洋史・小久保晋・早川正幸・山村英樹：落葉からの運動性放線菌獲得に向けたろ紙・カップ集積培養法の検討，第39回（2025年度）日本放線菌学会大会，2025.9

国際政策学部

1. 萩原孝恵・池谷清美：微笑みの認識—なぜ、そこで微笑んだのか—，第2回タイ国日本語教育国際シンポジウム，2026.3
2. 大村梓：瀧口修造におけるシュルレアリスム理論の受容：詩・絵画・翻訳の観点から，国際シンポジウム シュルレアリスムの文学と芸術，2026.1
3. 石山宏・木下貴博：「Excel を利用した簿記教育—授業への導入可能性—」，日本会計教育学会 第17回全国大会，2025.12
4. 小野由莉子・松井亮太：行動経済学会第19回大会，硬い芯の鉛筆を用いた感情減衰バイアスに関する実験，2025.12
5. 中村結衣・松井亮太：確率の明確さと不明確さが選択に与える影響，行動経済学会第19回大会，2025.12
6. 菊地遥斗・松井亮太：値段表記のもたらす消費者への影響，行動経済学会第19回大会，2025.12
7. 松井亮太：楽しい経験を先にすべきか？後にすべきか？，行動経済学会第19回大会，2025.12
8. Yuko Akiyama・Arisa Yamamoto・Kanta Sugihara・Ayumu Sugiyama：How Third Wave Coffee Services Create Sustainable Value: An Analysis of Anti-Commoditization Mechanisms Through Value Co-creation, The International Conference of Serviceology (ICServ) , 2025.12
9. Jun Kawaguchi・Takayo Ogisu・Noriyuki Hashimoto・Masayasu Sakaguchi・Yohei Sekiguchi・Ki-Seok Lee: Bridging Research and Practice in International Education Development: An International Comparative Study of Japan and South Korea, 国際開発学会第36回全国大会，2025.11
10. 高野美千代：Sir William Dugdale による好古学とアイデンティティ探求 ～ Antiquities of Warwickshire と History of St. Paul's を中心に～，英米文化学会 第43回大会シンポジウム 近世英国におけるアイデンティティの探求，2025.9

11. 高野美千代・Angus Vine:17世紀甲斐の一読者による書物蒐集と読書活動, 科研費国際研究集会 近世日英書物文化の発展における類似性を考える, 2025.9
12. 杉原貫太・秋山由布子・杉山歩:日本のコーヒー市場における消費行動の変容と新たなマーケティング戦略の構築, 日本マーケティング学会カンファレンス 2025, 2025.10
13. Azusa OMURA:Shuzo Takiguchi and Literary Magazines, Surrealist Poetry and Painting Seminar, 2025.7
14. 大村梓:『アフターダーク』日本語原文と英訳での語りとパートナーシップ, 第14回村上春樹国際シンポジウム, 2025.7
15. 橋本憲幸・坂口真康・川口純:国際教育開発における研究と実務の架橋に関する再帰的検討—共著論文の執筆と協働事業の実施, 日本比較教育学会第61回大会, 2025.6

人間福祉学部

1. 奥谷佳子・金丸智里:幼小接続における「実践を語る語」に対する関係者の認識:教育実践の経験を有する幼児教育センターの職員による語りから, 日本発達心理学会第37回大会, 2026.3
2. 和田上貴昭・山田勝美・南野奈津子・谷口純世:児童養護施設等で暮らす外国ルーツの子どもたちの支援の状況—アンケート調査の報告—, 日本児童養護実践学会第18回大会, 2026.2
3. 本田秀夫・小林真理子・中嶋彩・久保木智洸:知的障害・発達障害とその家族の支援体制におけるQOLの視点の検討, 令和7年度知的障害・発達障害児とその家族のQOLを維持する支援体制整備に向けた研究報告会, 2026.1
4. 鬼頭学・阪本一英・奈須正裕・太田研:多様な子どもたちの個別最適な学びを支える授業力, 日本授業UD学会 第11回全国大会, 2025.12
5. 鈴木葵・林康成・八代一浩:児童の自尊感情を育む指導者のコーチングに関する一考察, 臨床教科教育学会全国大会, 2025.12
6. 花輪あすか・林康成・八代一浩:たき火動画の視聴による学生のリラックス感尺度の検証, 臨床教科教育学会全国大会, 2025.12
7. 田中清帆・林康成・八代一浩:振り返りをリアルタイムで共有する相互参照の効果—スプレッドシートの共同編集機能を活用して—, 臨床教科教育学会全国大会, 2025.12
8. 堀内萌子・林康成・八代一浩:HSCをもつ保護者の子育ての困難点と対応に関わる一考察, 臨床教科教育学会全国大会, 2025.12
9. 樋口綾乃・林康成・八代一浩:自然の中での暗闇体験において性差が子どもの知的好奇心にもたらす影響, 臨床教科教育学会全国大会, 2025.12
10. 久保木智洸・篠山大明・本田秀夫:小中学生におけるインターネットゲーム依存と精神的健康度およびQOLとの関係, 第66回日本児童青年精神医学会総会, 2025.11(優秀発表賞受賞)

11. 山田勝美・林知然・佐藤葵・有村大士・井出智博・飯塚成亨：社会的養育におけるドリフトについて考える～子どもに与える影響と支援のあり方をめぐって～，日本子どもの虐待防止学会第31回学術集会，2025.11
12. 池田充裕：シンガポールの幼児教育・保育に関する調査概要の報告（2），国立教育政策研究所「幼小接続期における教育の質の基盤形成に関する研究」プロジェクト国際比較班 令和7年度第2回研究会合，2025.11
13. 梅木博志・伊藤光洋・井上正太郎・川島ゆり子・坂本大輔・渋谷篤男・高木寛之・畑清美・牧野大樹：社協職員の福祉教育実践における価値の言語化～多様な実践の蓄積から紡ぎ出す基盤としての価値～，日本福祉教育・ボランティア学習学会 第31回えひめ大会 2025.11
14. 鈴木勲・池田将暢・熊谷美希・尾上志保・馬場貴孝・小積律子・太田研・和田一郎：改訂一時保護ガイドラインの実装に向けて―理念と実践の接続，日本子ども虐待防止学会第31回学術集会ほかいどう大会，2025.11
15. Ken Ota：The social validity of video self-monitoring for increasing on-task behavior in high school students with severe intellectual disabilities, International Association for the Scientific Study of Intellectual and Developmental Disabilities 5th Asia-Pacific Congress, 2025.10
16. 青柳修平・大津雅之・青柳暁子・田中謙：インクルーシブ生産システムの連なりにおける調達の影響―障がい特性優位のモノの流れ―，日本社会福祉学会 第73回秋季大会，2025.10
17. 大津雅之：ワーカーの「自己覚知」がもたらす当事者性的側面の不足感とその活用―クライアントに対する「共感的理解」から「客観的理解」への捉えなおし―，日本社会福祉学会 第73回秋季大会，2025.10
18. 大津雅之：「福祉専門職化」を「自己覚知」することの意義，日本教育福祉学会第15回研究大会，2025.9
19. 青柳修平・大津雅之・青柳暁子・田中謙：インクルーシブ生産システムにおける調達を安定させる数式の調整―試作的ゲーム教材による感度分析―，日本教育福祉学会第15回研究大会，2025.9
20. 中内麻美・榎本拓哉・野口和也・太田研・大石幸二：インクルーシブ保育の実践からともに育ち合う保育環境づくりを探る（2）-保育者同士の対話を生み出す仕組み-，日本特殊教育学会第63回大会，2025.9
- 21.
22. 高木寛之：過疎地域における地域福祉活動の担い手支援の再構成に関する研究-X 町社会福祉協議会における10年間の取り組みから-，日本地域福祉学会 第39回大会，2025.6
23. 池田充裕：シンガポールの教育課程改革の動向とビッグアイデア等による教科編成の

事例, 国立政策研究所「探究的な学びの充実に向けた教育課程の在り方に関する研究」
令和7年度第1回研究会合, 2025.6

24. 鳥居美佳子・古屋祥子・青柳啓子:保育者養成課程の学生による造形・食育活動実践ー
アニメーション的手法がもたらした学びに注目してー, 日本家政学会第77回大会, 2025.6
25. 古屋祥子:視覚のみに頼らない美術表現と触覚教育の探求, 山梨科学アカデミー,
2025.5(奨励賞受賞)

看護学部

1. 勝俣晴加:質的統合法(KJ法)からの学び~修士論文「幼児期にある重症心身障害児の
母親の子どもの意思を捉えた子育ての実感」を通して~ , 質的統合法(KJ法)研究会
第18回研究集会, 2026.3
2. 永尾徹・森慶輔・竹内彩乃・飯野光政・中條祐一: 発電用大型風車の形状に対する視
認者の印象ー拡大フィールド調査速報, 第21回 日本感性工学会春季大会, 2026.3
3. 石橋みちる:赤ちゃん体操とそこから先につなげる母親や家族への支援, 第40回日本
ダウン症療育研究会, 2026.2
4. 井上直子・高岸弘美: 自律存在のスピリチュアルペインを抱える終末期がん患者の看
護支援の分析, 第40回日本がん看護学会学術集会, 2026.2
5. 増井晃・西村昭徳・奥村太一・森慶輔・北島正人・宮下敏恵: 特別支援学校における
教職員間ストレスと離職意識, 日本学校メンタルヘルス学会第29回大会, 2026.2
6. 森慶輔・宮下敏恵・増井晃・奥村太一・西村昭徳・北島正人:教員採用試験受験希望と
教師効力感, キャリアビジョン, 教育実習不安, 日本学校メンタルヘルス学会第29回
大会, 2026.2
7. 宮下敏恵・大門秀司・北島正人・森慶輔・奥村太一・増井晃・西村昭徳:教頭職の教職
員に対する認知的評価の違いによる若手教員への支援について, 日本学校メンタルヘル
ス学会第29回大会, 2026.2
8. 奥村太一・宮下敏恵・森慶輔・増井晃・北島正人・西村昭徳:教育実習生が実習中に抱
く感情の変化と個人差, 日本学校メンタルヘルス学会第29回大会, 2026.2
9. 西村昭徳・宮下敏恵・大門秀司・森慶輔・奥村太一・北島正人・増井晃:ベテラン教員
は若手教員のメンタルヘルスをどのようにとらえているか?, 日本学校メンタルヘル
ス学会第29回大会, 2026.2
10. 中澤恵美・武井勇介:育児と仕事の両立に葛藤する看護職に関する文献レビュー, 第45
回日本看護科学学会学術集会, 2025.12
11. 武田真弓・南村二美代・篠持知恵子: 慢性病をもつ人の仕事と療養の両立行動の実態
ー慢性病をもつ人の仕事と療養の両立行動尺度の開発に向けてー, 第45回日本看護科
学学会学術集会, 2025.12
12. 新藤裕治:くも膜下出血患者に対する国内看護研究の傾向と課題:スコーピングレビュー

一、第45回日本看護科学学会学術集会 2025.12

13. 井川由貴・山本奈央・高取充祥・山崎友香子・山本真基子・野口和代・工藤光生・遠藤みどり: 腹腔鏡下消化器外科手術における術後疼痛の連続性と予測可能性に関する定量的分析, 第21回日本クリティカルケア看護学会学術集会, 2025.12
14. 山北満哉・安藤大輔・山縣然太郎: 小学生におけるスポーツの習い事の数とGrit(やり抜く力)の関連: 横断研究, 日本学校保健学会第71回学術大会, 2025.11
15. 齊藤大空・高取充祥・深沢壮・花輪一真・仲嶋龍玖: 一般病棟における呼吸数測定に焦点を置いたRRS学習会前後の変化《半年間の測定率の比較》, 第27回日本救急看護学会学術集会, 2025.11
16. 中澤寛子・山口みどり・高岸弘美: 短期記憶力低下を伴うがん終末期にある高齢者患者の意思決定支援の事例からの学び, 第48回日本死の臨床研究会 年次大会, 2025.11
17. 井上直子・白倉旭・高岸弘美: 緩和ケア病棟における作業療法士と看護師が協働し実施するがんリハビリテーションのシステム化に向けた取り組み, 第48回日本死の臨床研究会 年次大会, 2025.11
18. 平田良江・名取初美・萩原結花: 高年初産婦の育児適応と影響する要因, 第66回母性衛生学会学術集会, 2025.10
19. 石橋みちる: お産を支え、家族とともに歩む一助産師としてダウン症の赤ちゃん体操指導員として一, 第5回日本ダウン症会議・第7回日本ダウン症学会学術集会, 2025.11
20. 猪飼やす子: 特発性肺線維症療養者との病状や予後、生活に関するコミュニケーションに対する医療者の意識調査, 第35回日本呼吸ケア・リハビリテーション学会, 2025.10
21. 高岸弘美・深澤一裕・筒井俊晴・乙黒恵子・小山美佐江・金子延枝・中柄創和・西山佐知子・関谷宏美・山下浩樹: 多職種参加型の研修会における開催形式の違いによるニーズや課題の検討, 第35回日本呼吸ケア・リハビリテーション学会, 2025.10
22. 高取充祥: 山梨県主催のスポーツイベントやヴァンフォーレ甲府スタジアム救護に山梨県立大学看護学部生がファーストエイドチームとして参加する意義, 令和7年度やまなし産学官連携交流事業 研究発表会, 2025.10
23. 白倉典子・藤原裕美・日吉恭則・武井泰: 造影CT検査における造影剤副作用カードの活用に関する実態調査, 第14回日本放射線看護学会学術集会, 2025.9
24. 米田昭子・林直子・山北満哉・山根晴香・岡千恵美・鈴木南・渡邊美歩・土棚恵: 治療中断の時期を有する2型糖尿病の人を対象としたケアプログラムのパイロットスタディ, 第30回日本糖尿病教育・看護学会学術集会, 2025.9
25. 米田昭子・谷本真理子・内海香子・天野薫・佐藤真理子・須森未枝子・武田真弓・長谷川智子・馬場敦子: 慢性病と共にある人が『生き生きと生活することを支える』ケアモデルの検討, 第19回日本慢性看護学会学術集会, 2025.9
26. 阿部美穂子・石橋みちる・金井美希・深沢淳子・諏訪智広: ダウン症児を同胞に持つ学齢期きょうだいの支援ニーズに関する研究ーきょうだいのためのワークショップを通

- して一，日本特殊教育学会第 63 回大会，2025.9
27. 白倉典子，藤原裕美，日吉恭則，武井泰：第 14 回日本放射線看護学会学術集会，2025.9
 28. 井川由貴：公立大学の看護学士課程教育における国際活動の実際，第 9 回日本国際看護学会学術集会，2025.9
 29. 中込洋美・横内理乃：在宅療養移行支援における病院看護と訪問看護の連携する上での困難感—病院看護管理者の認識—，第 29 回日本看護管理学会学術集会，2025.8
 30. 井川由貴・山本奈央：手術侵襲による一時的な栄養低下が術後疼痛の経過に及ぼす影響，第 21 回 日本クリティカルケア看護学会学術集会，2025.7
 31. 武田真弓：成人期の慢性疾患患者に求められるセルフケア能力，第 61 回日本小児循環器学会総会・学術集会，2025.7
 32. 勝俣晴加：幼児期にある重症心身障害児の母親の子どもの意思を捉えた子育ての実態，日本小児看護学会第 35 回学術集会，2025.7
 33. 山崎友香子・井川由貴・山本奈央・高取充祥・遠藤みどり・山本真基子・工藤光生・中村祥英：外科手術を受けた患者への術後疼痛管理の標準化における課題，日本集中治療医学会第 52 回学術集会，2025
 34. 香村恵介・山北満哉・喜屋武享・井上茂・長野真弓・武長理栄・BREUGELMANS Raoul・JEGO Eric Hajime：幼児の 24 時間の行動を評価する Movement Behaviour Questionnaire-Child 日本語版の開発，第 27 回日本運動疫学会学術総会，2025.6
 35. 田墨恵子・前澤美代子・田村恵子・橋本理恵子・藤原由佳・三浦里織・吉田智美：がん看護分野評議員主催セミナーを開催して見えた課題，日本 CNS 看護学会誌 第 11 巻，85，2025.6
 36. 塩津裕也・渡邊裕子・小山尚美：急性期病院の一般病棟における認知症ケアに関する看護師間の対話の要素と構造 認知症看護認定看護師へのインタビューを通して，日本老年看護学会第 30 回学術集会，2025.6

地域人材養成センター

1. Ann Kudo・Ryuji Yamazaki-Skov：The Use of AI in Art Therapy: Creative Support and Work Analysis, International Workshop on the Futures of Care in Denmark, Israel, and Japan - Creation Through Technology, Art, and Culture , 2026.3
2. Ryuji Yamazaki-Skov:Exploring Humanity in Social Robotics: Beyond the Boundaries of Human and Machine, Life and Death, 2026.3
3. Ann Kudo, Ryuji Yamazaki-Skov: The Impact of AI-Human Collaborative Art Activities on Communication in Therapy, International Symposium on the Significance of Academic Activities: How and why we should approach our experiences academically - A Discussion from the Perspectives of Science and Technology, Phenomenology, and Practice, 2025.12

4. Kokona Kitahara, Ryuji Yamazaki-Skov: An Embodiment-Based Approach to Environmental Issues Through Communication Media Development, International Symposium on the Significance of Academic Activities: How and why we should approach our experiences academically - A Discussion from the Perspectives of Science and Technology, Phenomenology, and Practice, 2025.12
5. 増田貴史:染色におけるファンデルワールスカの利活用に関する研究, やまなし産学官連携研究交流事業, 2025.10
6. 増田貴史・森田彩未・坂田ひさ美・岩澤文那・田中愛華・浅利美月・小尾颯也: ファンデルワールスカの活用による天然染料の高機能化に関する研究, 日本繊維製品消費学会 2025 年年次大会, 2025.6
7. 森田彩心・原賀美子・川原剛・増田貴史:地域の木材や草木を用いたサステナブルファッションの取り組み, 日本繊維製品消費学会 2025 年年次大会, 2025.6